

[共通事項（生命保険協会／日本損害保険協会）]

1. 経営環境の変化への対応

- 我が国の経済・社会環境を見ると、平均寿命が長くなったことによる老後への不安、低金利環境の長期化、自然災害の増加、サイバー等の新たなリスクの出現など、不確実性が増大。
- 保険会社の役割は、経済・社会の様々なリスクを制御する手段を提供することであり、不確実性の増大は、様々な保険へのニーズが新たに生まれてきているとも考えられる。そうした環境に対応した成功事例を作ることは、海外においても競争力を持つ保険商品やサービスを生み出す契機にもなり得るのではないか。

2. テクノロジーの進化への対応

- IT技術の進展により、個々の顧客の状況やニーズに応じたきめ細やかな対応を、ビジネスとして成り立ちうるコストで行う可能性が拡大。
- テクノロジーがいかに進化しても、顧客は、テクノロジー自体を評価するのではなく、それを勧める人や企業を信頼してテクノロジーを利用。
- 顧客本位のビジネスモデルを作っていくことがテクノロジーの進化にかかわらず重要であり、それが既存のチャネルの価値を高めることにもつながるのではないか。

3. 検査・監督の見直し

- 新しい検査・監督のあり方について、昨年8月より「金融モニタリング有識者会議」を5回開催し、ご議論をいただいたところ。
- 本年度中に同会議の報告書をおまとめいただき、これを踏まえ、春頃に金融庁としての考え方をとりまとめる予定。

- その後、オン・オフが一体となった検査・監督を本格的に実施するため、金融検査マニュアル・監督指針の見直し、金融庁の組織の見直しや、専門人材の育成等に取り組んでいく。
- 新しい検査・監督について、金融機関と金融庁が共通の理解に立つことが重要であり、十分な対話を行っていきたい。

(以上)